

# ゲージ類を間違いなくお使いいただくために

## 安全上の注意

- ゲージを検査以外の目的で使用しないでください。  
例えば、ナットやボルトの代わりにねじゲージを使用することや工具代わり（ハンマー、タップ、ダイスなどや、さらえを目的にしようすること）にゲージを使用することは絶対にしないでください。破壊によるケガやゲージ精度の低下につながるとともに、場合によっては安全性を損ねることがあります。
- ゲージには、その機能上の要求により鋭利な部分がありますので、ケガなどに十分注意してください。特にねじゲージは、ねじ山および不完全ねじ山が鋭利になっていますので、プラスチック防錆包装材（シールピール）、防錆紙、緩衝材などをはがすときは十分注意してください。
- ゲージとハンドルが緩んでいないことを使用前に必ず確認してください。ゲージを使用するときに、ハンドルを叩くとハンドルの破損によりゲージを落下させる恐れがありますので、ハンドルを叩いたりしないでください。ハンドルの緩みや破損などにより大型のゲージが落下した場合、思わぬ事故が発生することがありますので十分注意してください。
- ゲージまたは製品が運動状態にある時は、絶対にゲージによる検査をしないでください。落下、破壊、飛散などにより重大な事故が生じる恐れがあります。幸いにして事故やケガに至らなくても、ゲージの異常、摩耗、発熱などを生じてゲージの寿命に悪影響を与えます。
- 気化性防錆紙の取扱い後は、石鹼水または清水で手を洗ってください。詳細は日本防錆技術協会（☎03-3434-0451）にお問合せください。
- プラスチック防錆包装剤（シールピール）は、消防法による可燃性固体類に該当し、溶解時には火傷の危険があります。火気に近づけたり、不用意に火中に投入しないでください。また、手に付着した場合は手をよく洗ってください。詳しくは、理研アルマイト工業株式会社（☎045-211-6740）にお問合せください。
- 製品の口元の状態に気をつけてください。打痕、かえりなどがあるとゲージによる判定に狂いを生じさせます。特に、ねじ製品の場合には不完全山の倒れによる判定誤差が生じ易くなります。
- ゲージに強い力で打撃を与えたりしないでください。例えば、通り側ゲージを通すため、あるいは抜けなくなったゲージを抜くときに、ハンマーなどで強く叩いたりして衝撃を与えないでください。ゲージに傷、割れ、変形などを生じてゲージの機能を損ないます。
- 誤ってゲージを落とすなどした場合は、損傷の程度を確認し、良質なアルカンサス砥石でかえりを除去するなどの適切な処理を行ってください。ゲージ形状によっては寸法変化の可能性があるので、精度検査を実施してください。
- ゲージが磁化した場合は、脱磁してください。ゲージが磁化すると切粉や鉄粉などが付着しやすくなり、摩耗を早める原因となります。

## 保管時の注意

- 製品とゲージ、あるいはプラグゲージとリングゲージなどを、はめ合せた状態で保管しないでください。密着したり、錆発生の原因になることがあります。
- ゲージを保管する際には、塵埃・切粉・指紋などを除去して、錆対策を行ってください。またゲージは湿気がなく温度変化の少ない場所に保管してください。錆対策としては、ゲージを軽油または白灯油などで洗浄した後、
  - 良質な防錆油を満たした油槽につけておく
  - 防錆紙に包む
  - シールピールで包むなどの方法があります。

## 寸法管理上の注意

- ゲージは、摩耗や使用頻度などを加味して、定期的な検査を実施してください。
- ゲージ寸法は、20℃で定められていますので、環境温度が20℃でない場合は20℃に換算した後、寸法判定をしてください。また比較測定の場合には、ブロックゲージとの温度差に注意してください。ブロックゲージを除く当社のゲージの換算は、1mmの長さで、1℃の変化で0.012μmの割合で行ってください。
- ゲージの測定時には、錆や温度上昇による寸法変化を防ぐために手袋やピンセットなどを用い、素手で触れることは極力避けてください。

## ご使用前の注意

- ゲージを使用する前には、塵埃などを除去するためにゲージおよび製品を軽油または白灯油などでよく洗浄するか、乾いたきれいな布などでよく拭きとってください。
- ゲージを使用する前には、ゲージの錆、傷、かえりなどの有無を確認してください。錆、傷、かえりがあった場合には、良質なアルカンサス砥石などで丁寧に除去してください。

## ご使用時の注意

- ゲージの使用に際しては、ゲージに良質な防錆力がある潤滑油を十分塗布した上で使用してください。製品に付着している塵埃や切粉などをよく除去してあることを確認した上で、ゲージによる製品検査をしてください。特に砂ぼこりが付着していると著しくゲージの摩耗を早めます。
- 限界用のゲージは、通り側ゲージが通ることを確認してから、止り側ゲージが止ることを確認してください。
- テーパねじゲージで製品ねじを検査する場合、ゲージを最後まで急速にねじ込むと、衝撃的にねじ込まれて、抜けなくなりますので、最後のねじ込みは慎重に行ってください。